

性の多様性

ハヤシ・カイト

”レディース&ジェントルマン、今日は私のスピーチを聞きにきてくださり本当にありがとうございます!”の様なフレーズをみなさんは一度は聞いたことがありませんか。ですが”レディース&ジェントルマン”は今日死語になりつつあります。その理由は必ずしも皆自分を男性、もしくは女性のどちらかとして認識していないからです。

性にはいくつもの種類があります。その中でも有名なのが LGBT、つまりレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーです。しかしその他にも色々な人がいて、自分は男性でも女性でもないと自認している人だったり、体が男性で女性が好きだけど女性用の服装をする人。他にも他者に対して恋愛感情を抱かない人もいます。つまり性を二つに分けるという行為はそれ以外の人達を蔑ろにするということです。

セクシャルマイノリティに該当する人は世界の中でも約10%、つまり左利きの割合と同じくらいという研究結果もあります。ですが左利きの知り合いはそこそこいるがセクシャルマイノリティの人はあまり見たことがないという方はいませんか。それは今の社会がその様な人達にとって生き辛く、自身の性をカミングアウトがするのが難しいからです。とくに日本はその傾向が強いと言われており、私自身もブラジルでは街中でたまに見かけますが、日本に来てからはまだ一人しか見たことがありません。

みなさんは友達に”彼氏はいる?”もしくは”彼女はいる?”と聞いたことはありますか。もしゲイの人が彼女はいるかと聞かれたら、人によっては特に気にせず流しますが、中には聞かれる度に傷つく人もいます。これは単なる一例ですが、セクシャルマイノリティの人たちが生き辛く感じる瞬間は大抵そういった無意識の差別を受けた時です。テレビなどでよく取り上げられるのは、明確に差別だということがわかるような、罵倒や暴力を振るうシーンですが、大半の人は特に他人を傷つけるという気はなく、ただ性のあり方に詳しくないがために無意識に差別的な言葉を選んでしまっているだけだからです。

この問題の完全な解決は非常に難しく、人々が皆性の多様性について知るだけでなく、心から理解しなければいけないのです。私自身もセクシャルマイノリティについて勉強していても、日常の中で差別的な発言をして後で後悔することが多々あります。ただ状況の改善ならば簡単で、より多くの人々が性の多様性について知って、意識するだけでいいんです。

私はこのスピーチを聞いている方が一人でもセクシャルマイノリティへの配慮をして、”彼氏いる?”などの代わりに”恋人いる?”といった言葉を選んでくれるようになったなら嬉しいです。

ではこれにて私のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。